

保護者の皆様へ

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

千早赤阪村立千早小吹台小学校
校長 當麻 裕彦

今年度の4月に実施しました標記の調査（6年生対象）の実態と課題、改善点を報告いたします。なお、本校は、人数も少なく、一人の結果の善し悪しが、大きく結果に反映されるため、全体の傾向を分析しにくいという特徴があります。また、学力調査の結果は、子供たちが身につけるべき学力の一部分であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものでもありません。この分析を通して児童の学力が向上しますよう、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○調査の対象
小学校6年

○調査の内容

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A）
- ・主として「活用」に関する問題（国語B 算数B）
- ・「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題（理科）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

国語Aについて

優れているところ

- 主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く。
- 目的に応じて必要な情報を捉える。
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使う。
- 漢字を文の中で正しく使う。

課題のあるところ

- △慣用句やことわざに親しみ、意味を理解し、使う。

全体として全国平均を上回り、無回答もほとんどありませんでした。「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべてにおいて全国平均を上回っておりました。特に『つながりに気を付けて書き直す』問題や『漢字に直す』問題、『適切に敬語を使う』問題では、平均を大きく上回りました。日ごろから、文の組み立てや主語述語を意識しながら書くこと、漢字や敬語を正しく覚えて使うことの積み上げができてきているようです。今後もこのままの学習姿勢を続けていって欲しいと思います。

今後の課題としては、もっと本を読むなどして慣用句やことわざにも親しみ、豊かな表現に生かせるようになっていくことが挙げられます。

国語Bについて

優れているところ

- 話し合いの参加者として、質問の意図を捉える。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える。

課題のあるところ（全国的に正答率が低かった）

△話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて書く。

全体として全国の平均を上回りました。

「書くこと」については、全国平均より劣ってはいませんが、敢えて言うならば、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて書く力や、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題が見られると言えます。

B問題は前のページに戻って読み返したり、必要な条件を確認したり、できた解答が題意に沿っているかなどの確認が必要です。そのため問題が少なくても時間がかかります。本校では3分の1の児童が、解答する時間がやや足りなかった、または全く足りなかったと答えています。問題文と解答用紙が分かれているテストに慣れるとともに全体の問題を見てから時間配分をするなどの工夫が必要です。また、日頃から読書習慣をつけ、速く正確に読み取る練習もしておく必要があります。

算数 A について

優れているところ

- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合を比べる。
- 角の大きさを正しく理解し、角の大きさを求めることができる。

課題のあるところ

- △時間内に表の処理や正確な計算をする。
- △円周率の意味について理解する。
- △百分率を求めることができる。

全体として大阪府や全国平均をやや下回りました。

除法（割り算）で表すことができる二つの数量の関係やそれらを数直線で表したり、割合を求めたりすることに課題が見受けられます。また、直径、半径、円周の大きさを使って円周率を求めるという、円周率の意味を問うような問題には不正解が多かったのですが、直径と長さの関係を問う問題は理解できているようなので、もう少し多く問題を解くことで、理解をより確実なものにすることは必要だと思われます。

角の大きさについてはその意味を理解し、全員が 180° 以上の大きい角の大きさも求めることができます。

算数 B について

優れているところ

- 文章をしっかり読み取り、題意に沿った回答をする。
- 平均の意味がわかり、正確な計算をする。
- 百分率を割合で表すことができ、それを元にグラフを数値化する。

課題のあるところ

- △一つの問題をいろんな考え方をを用いて解く。
- △数学的な考え方をする。
- △自分の考え方と問題を解いていく筋道をことばや式などで表す。

全体としては全国、大阪府の平均と同じぐらいでした。

算数Bの問題の特徴は、「文章の読解」「図や表、グラフの読み取り」「文章中にあるヒントの素早い理解」「問題に沿った形で式と言葉で表す力」などが求められることです。ほとんどが基礎基本の活用なのですが、児童には題意が読み取りにくいと考えられる問題も出題されています。

日常生活の問題の解決のために、示された情報を解釈し数理的に処理したり、示され

た方法を解釈・適用し、条件に合う事柄について、適切に判断したりすることができるかどうかを見るために「玉入れゲームの計画を立てる」という問題がありました。全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを問われたり、1回の玉入れの時間を制限された場合に、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合うものを判断する力を求められたりするという問題です。必要な数字を選んで計算の仕方を考え、正しく計算する力が求められます。不正解の児童の多くは正解に近いところまではたどり着いていますが、その考えを言葉や式で表す力に課題があります。数量の関係に着目して、筋道を立てて考え、数理的に処理することができるように、今後も指導の工夫をしていきたいと思えます。

理科について

優れているところ

- 科学的な言葉や概念を理解する。
- 結果を見通して実験の構想を立てる。
- 複数の情報を関連付け、分析し考察する。
- 実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想し、より妥当な考えへ改善する。

課題のあるところ

△学習を通して獲得した知識を、実際の自然や日常生活などほかの場面に適用して考え、説明する。

全体としては全国を上回っています。

「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の4観点のうち、知識・理解が特にポイントが高かった。「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の4分野から出題されましたが、「生命」以外の分野では特に高い正答率となっています。「生命」の分野では、「腕の曲げ伸ばしについての説明」を問う設問に対して、『縮む』『緩む』の言葉を使って説明することができず、ほかに比べて正答率が悪くなりました。記述式の問題全体の正答率は全国平均よりかなり上回っていますので、説明する力がそれほど悪いわけでもありません。学習した科学的な言葉や概念の理解はしっかりできているので、今後はそれらを使って、正しく分かりやすく説明する力を、授業の中でつけていく工夫をしなければならないと考えています。

今後の授業改善の取り組み

- ・ 学校全体で学力学習状況調査の結果を共有し、「学力向上・研修部」を中心に指導の充実を図っていきます。
- ・ 授業では「めあて」を明確にし、それに到達させる工夫を今後も続けていきます。
- ・ 児童が「分かった、できた」を実感できるように「まとめ」と「振り返り」を大事にし、ノートづくりの工夫もしていきます。
- ・ 「根拠」に基づいて「理由」をつけて考えたり、書いたりする場面を取り入れた授業を意識した授業改善に努めます。
- ・ 理解を助けるためのヒントカードを使うなど、一人ひとりの発達段階に応じた学習を進めます。
- ・ 学習したことを生かしながら、人に伝えたり、言葉や式などで表したりする力をつけるための学習展開の工夫をしていきます。

学習状況アンケートについて

・「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の割合が8割を越え、自己肯定感が高い児童が多いことが分かります。この結果は、家庭力を柱に学校と地域が密接に連携できていることが大きいと思っております。これからも児童一人ひとりを大切に、よいところは思いっきり誉め、悪いところは感情的にならずはっきり叱ることを継続しながら児童を育成したいと考えています。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では、全国平均を上回り、100%の児童が肯定的な回答をしています。

・「朝食を毎日食べていますか。」の項目では、全国平均ぐらいですが、まったく食べていないと答えた児童はいませんでした。「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか。」の項目では肯定的回答が全国平均より14ポイント下回り約63%でした。睡眠が安定することは児童の心身の成長や学習意欲に大変大きな影響をもたらすものと考えられますので、各ご家庭のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」や「学校の授業の予習・復習をしていますか」には、肯定的な回答が全国を上回っている一方で、「全くしていない」という回答も全国を上回っており、個人差が大きいことが分かります。

・普段（月～金）1日に学習する時間は、2時間以上と答えた児童の割合は47.4%と全国平均29.3%を大きく上回っていますが、1時間より少ない児童の割合が36.9%と全国平均より少し多いことから、個人差が大きいと言えます。

また、普段（月～金）読書を全くしないと回答した児童が36.8%いました。全国平均は18.7%であることから、もう少し読書の時間が増えるようになればと思います。

・住んでいる地域の行事には多く（90%）の児童が参加しています。（全国62%）また、地域のボランティア活動にも積極的に参加しています。

しかし、その反面、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の問いには肯定的な回答は58%にとどまり全国平均の64%より低めであることが分かります。新聞や世の中の出来事にあまり関心のない児童の割合も高いです。

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問では、95%の児童が「あてはまる」と答えています。本校では、仲間づくりの活動や人間教育・道徳教育の充実など、学校の教育活動全体を通じて、今後も「いじめ」に対しての理解を深め、正しく行動できるよう努力していきます。

終わりに

学校では、授業研究や公開授業、大学の教授等を招聘しての指導力向上研修、大阪府府教育センターでの研修、各種研究発表大会への参加などをとおして授業力を高め、児童の思考力、判断力、表現力を高めるよう授業改善に取り組んでいきます。

ご家庭でも学習に集中できるよう、生活リズムを整え、認め、励まし、対話のある温かい家庭環境づくりをどうぞよろしくお願いいたします。